

絆

きずな

図書館ボランティアだより

第41号 令和3年(2021年)9月1日

発行 阪南市立図書館フレンズ広報部会

図書館フレンズ 9月の活動予定

* 入会などのお問い合わせは、阪南市立図書館 図書館フレンズ事務局
(072 - 471 - 9000) までご連絡ください。

部会	活動内容・日時	場所など
配架部会	返却本を本棚にもどす 開館日：午前9時～10時	図書館内
書庫入れ部会	書庫で返却本の整理をする 毎週火曜日：午前10時～12時 毎週金曜日：午前10時～12時	図書館3階
図書整備部会	本の修理など 毎週月・金曜日 午前10時～12時・午後1時～3時	図書館内
館内装飾部会	児童コーナーの飾りを制作し飾り つけ最終火曜日午前中	図書館内
広報部会	広報「絆(きずな)」の編集・発行 「絆(第42号)」編集会議 9月19日(日) 午後2時30分～3時	オンラインで行っています。
生け花緑化整備部会	館内の生け花や観葉植物の世話 随時	図書館内
ブックスタート部会	絵本パックの配布 休止中	保健センター
おはなしでてこい	お話・絵本の読み聞かせ・紙芝居 など 9月18日(土) 9月25日(土) 午後2時～2時20分	図書館内 紙芝居コーナー
はじまり はじまり♪紙芝居	紙芝居の上演 毎週日曜日 休止中	図書館内 紙芝居コーナー

*活動日時は、新型コロナウイルスによる感染症の拡大によって、変更になる場合があります。



カット 河野芳夫



図書館フレンズ紹介

わたしたちの活動



こんなことをやっています。一緒にやりませんか？

館内装飾部会



広報部会



↑ 「おはなしのへや」をひまわりで。



↑ 絵本『すいかくんがね』の一場面を。



↑ 絵本『ほしになった りゅうのきば』の一場面を。

活動日：毎月最終火曜日午前中

連絡先：阪南市立図書館

072 - 471 - 9000

広報部会は、広報「絆（きずな）」を毎月発行しています。内容は、図書館フレンズの各部会の活動を紹介し、

- ① 第一に図書館フレンズの会員相互の理解と親睦をふかめることを目的にしています。
- ② 同時に、多くの市民の図書館ボランティアへの参加を呼びかけています。

部会員は、編集するもの、取材するもの、カットを描くものなど、それぞれの特技を生かして活動しております。

自分の特技を出しあって、素晴らしい広報「絆」を一緒に作りませんか。

活動日：毎月第3日曜日

午後2時30分～3時まで

オンラインで編集会議

連絡先：阪南市立図書館

072 - 471 - 9000

カット 泉鳥取高校生

対談 —図書館ボランティアを考える—

阪南市立図書館長 加藤靖子 × 図書館フレンズ代表 橋本一郎



橋本: お忙しい中、時間をとっていただき有難うございます。図書館の指定管理者制度の導入方針が決まり、図書館フレンズの一人一人が図書館ボランティアの意味や意義についてもう一度問われることになりましたが、加藤館長は、図書館ボランティアについてどのようにお考えでしょうか？

加藤: 図書館ボランティアは平成15年から開始しました。

目的は、「生涯学習の一環として、市民が自由意志に基づき無償で個人の技能・能力を提供」として、図書館業務のうち市民参加が可能なものについて、援助を受けています。

それから18年が過ぎ、初年度の20人から、昨年度のご登録は80人に増加しました。個人ボランティアを対象として始まりましたが、平成28年に団体も含めた組織に改変し、会則を作りました。

よその市を参考にしながらの組織作りでしたが、今振り返ってみると、うまく機能していない点多々あります。この度、役員会や橋本代表から会則の見直しをご提案いただきましたが、令和5年度の指定管理者制度導入を前にして、時宜にかなったことだと思えます。今一度、図書館ボランティアの意味や意義を考えつつ、新しい時代の阪南市立図書館フレンズの活動になるよう、皆さんと共に考えていきたいです。

橋本: 確かに、図書館ボランティアは「図書館業務の援助をする」という意味がありその上に、ボランティアをする人にとっては、「生涯学習」の意味もありますね。しかし、「指定管理者と言う民間の企業に力を貸すのは、どうも納得できない」という人もありますが、どのように考えるべきでしょうか？

加藤: 図書館法第3条において図書館が行うべきとされていることは、9項目に渡っています。地域の実情に応じて、取捨選択して事業実施していくのですが、阪南市の図書館規模や職員数では、やりたくてもできないこともあり、優先順位をつけて実施するしかありません。その中で、図書館の基幹業務として、図書館に備えるべき蔵書の選書や除籍、利用者のプライバシーに係る貸出や返却等は、職員がすべき業務です。

それ以外の業務、たとえば本の修理や整理、おはなし会や館内装飾の実施については、職員だけでも可能かもしれませんが、ボランティアの皆様力を借りることで、よりよい内容（質、量ともに）になっています。また、職員だけではできないけれども、ボランティアの皆様力があればできることもあり、その結果が市民サービス向上につながっています。

民間の企業が指定管理者として運営する場合でも、費用は税金から出

カット 河野芳夫

ており、市立図書館であることに変わりはありません。指定管理者は基幹業務をカバーしますが、今ボランティアの皆様が担っておられるプラスアルファ部分まではカバーできないかもしれません。指定管理の元、新たに図書館員となった者達は、よりよいサービス提供のために努力しますが、市民の皆様の助けなくしてはむずかしいです。その辺りをご理解いただき、運営主体が替わっても市立図書館を支えていただきたいと願っています。

橋本:市民が図書館ボランティアに参加して来ると、そこには色々な考えがありぶつかりあうことも考えられます。そのことについては、どのようにお考えでしょうか？

加藤:阪南市立図書館が今後めざしていく方向は「市民が育てる持続可能な図書館」です。どのような活動が、図書館を育てるか、多くの方が参加することで、いろいろな考え方があると思います。阪南市立図書館の基本方針に立ち返って、ボランティアの皆様、指定管理の図書館員、市の図書館担当でその都度話し合って進んで行きたいと思っています。

橋本:図書館は、指定管理者制度導入方針が決まった今、大きく変わっていかねければならないと思います。加藤館長の描いておられる「これからの阪南市立図書館」はどのようなものでしょうか？

加藤:先ほども言いましたが、「市民が育てる持続可能な図書館」を思い描いています。直営時代から市民とともに育ってきて32年目になりました。市民

と市の職員に指定管理者が加わって、三者で知恵を出し合い、よりよい図書館に育っていったほしいと願っています。指定管理者による視点やスキルが加わることで、新たな図書館利用者へのアプローチや集客も期待しているところです。

橋本:私は、今の阪南市立図書館は、まだまだ、今までの図書館のイメージを引きずっていると思います。批判を恐れず、大きく変わっていくことが必要だと思います。「認知症カフェ」は大きな転換だったと思います。

また、一昨年の「講演とワークショップ」が大きなヒントを与えてくれていると思います。あの「講演とワークショップ」では、市民がもっと積極的に図書館に関わることが大切だと教えられたように思いますが。

加藤:私たち図書館職員にとっても、マスターズCafe（認知症カフェ）を市民や地域包括支援センター、介護保険課と連携して始めることは大きなチャレンジでした。また、「講演とワークショップ」には、多くの市民の参加があり、市民はもっと図書館を応援できるよ、と思っていることを知りました。その結果、「この指とまれ〜 あしたの図書館」というグループも生まれ、イベント企画を行うようになっていきます。折からのコロナ禍により、その活動は停滞していますが、運営が指定管理になろうとも市民、市、指定管理者の3者が協力することで、新しいものが生まれることでしょう。

橋本:今日は、長時間にわたり有意義なお話を有難うございました。

令和3年度 第1回 図書館フレンズ役員会での採決結果報告と 採決時に出された意見・質問について、代表と事務局の意見・見解

広報「絆」第40号でお知らせしました通り、令和3年度 図書館フレンズ役員会が6月1日より書面で開催され、6月30日で採決が締め切られました。

その結果、「令和3年度 図書館フレンズ事業計画（案）」は、賛成多数で承認されました。採決に際して、役員の皆さんから、意見が出されましたので、事務局と代表がお答えいたします。（代表・事務局）

令和3年度第1回書面役員会採決結果について 報告及び代表と事務局の意見

令和3年8月20日

採決用紙の配布 15名（代表含む） 回答 13名

案件1 令和2年度事業報告について

・賛成 13票・反対 0票・保留 0票・棄権 0票

案件2 令和3年度事業計画について

・賛成 13票・反対 0票・保留 0票・棄権 0票

案件3 その他について

④について

- 「はじまり」のあり方について。事務局の回答について、代表の「今後の検討課題とします」にお任せしますが、「はじまり はじまり♪紙芝居」の方が独立活動している団体ではありませんか？そのため副部会長を引き受けましたが…位置づけが違うと思います。

代表：「はじまり はじまり♪紙芝居」部会のありかたについては、事務局と調整中です。出来るだけ早急に結論を出し、皆さんに報告いたします。

⑤について

- 「おはなしでてこい」さんも独立活動している団体ではないですか？その⑤の中で「この活動が指定管理者の利になることに非常に抵抗があり」とは？ボランティア活動では利になることはもともと考えられることですか？「自分たちの利」となるのでは。どうも考え方がわかりません。

事務局：「おはなしでてこい」は、図書館のおはなし会を、図書館職員とともに開催している団体で、それ以外の活動は行ってないため、「独立活動」とは言い難いです。図書館職員が行っていたおはなし会を分担しているため、自分たちの活動が「指定管理者＝営利企業の利になる」という考えになるのかもしれない。

⑥について

- 事務局の言われること、よくわかります。ボランティア活動の目的は変わりませんが、管理者によりかかわり方・対応は同じではないと思う。一抹の不安というか意に沿わない感が残ります。

⑦について

- 必要ならば、再編もしくは個々の部会で決定すればよいのでは。配架・書庫では、顔を合わせたことがない方々が多く、今までに連絡事項もありませんでした。

代表：はい。その通りだと思いますが、図書館フレンズは、図書館でのボランティアの組織なので、会員だけで組織を決めることはできません。事務局との調整が必要だと思います。

- 配架と書庫入れに入っていますが、今まで特に部会が必要と感じたことがないのですが？

代表：図書館フレンズが立ち上げられた時、同じ部会でも顔も知らないというのは寂しいし、部会として図書館への希望もあるのでということで現行の部会制度が決まりました。

部会員相互の親睦をはかったり図書館との交流会などはなかったのでしょうか？

事務局：会則第14条に部会交流会についての記載がある通り、過去には部会の交流会が開催されたこともありますし、部会内でお食事会の開催もあったようですが、ここ2～3年はコロナ禍でもあり、停滞しています。

- 部会は必要だと思いますが、なかなか集まることができず、意見も申し出なく、各人それぞれが時間のみ仕事して帰っている状態ですので、あまり気にしていない。互いに活動している人もわからない状態です。若い人に意見を聞いたら良いと思います。体調の加減で休みが多いので、役職名から抜いてください。

代表：役員さんのご苦勞に感謝いたします。どうしても、役職が一部の人に任せがちになりますね。そのようなことがないように、工夫が必要ではないでしょうか？例えば、任期は1年とし、必ず、交代することなどを予め決めておくなどが必要です。また、役職を引き受ける順番なども決めておく必要があるかもしれません。

団体で活動をする時、どうしても役員さんに負担をおかけすることになります。できるだけ役員さんの負担が少なくなるように、そして、みんなで負担を分担する工夫が必要だと思います。

- 部会の中で、連絡を取り合った事は、今まで一度もありませんでしたので。

⑧について

- 利益追求の企業のもとでボランティアをすることに対して違和感を持っています。

- 指定管理者が決まっていない状態での判断はできないと思う。決定後、管理者のボランティア活動に対する意見を聞きたい。ただ、ボランティアを無償で使える便利な手段と考えて欲しくない。

代表：加藤館長のお話のように、指定管理者がボランティアを必要としているかどうかを考慮して、図書館フレンズの活動を続けるというのではなく、市民のボランティア活動を一層広げ深めていくために、図書館フレンズの活動を位置づけ、そのあり方を検討して行こうということです。

「ボランティアを無償で使える便利な手段」だとは、誰も思っても言いませんよね。しかし、そう思っている人はたくさんいると思います。

例えば、被災地の人たちは、「ボランティアに感謝しています。有難いです。」と言いますが、それだって「無償の、便利な労働力」とみなしているのではないのでしょうか？ボランティアをしている人達は、それを承知で、やってくれているのだと思います。

中には、無償で、ボランティアをしてくれている人に「せめて」という思いで「炊き出し」をしたり、水などを提供したり、町から交通費を出したりするところもあります。しかし、それすら、「そんなことをしてもらったら、ボランティアにならない。」と、食料や水、その他、ボランティアに必要なものの一切を自前で準備し、交通費も受け取らず、リヤカーを引っ張ってボランティアをし続けている人もあります。一時、テレビで話題になりましたが……。

ボランティアは、あくまでも、その人の自主性に任されたものです。義務でもなければ、強制されるべきものでもありません。各個人の判断で参加するべきものだと思っております。

番号なし

- 書面役員会を開催いただき、有難うございました。皆様のご意見ご回答、拝見させていただきました。賛成させていただきます。よろしく願致します。
- 利用する者として少しは役立つことはないかという気持ちで参加することになりましたが、少しずつ考えることが難しくなってきました。制度の変更についても、Webを検索してみましたが、全体像が見えなくてやはり難しいです。
- 前回事務局への質問回答として提出したものに対し、事務局からの回答が、代表と事務局だけで判断されたものですか？一方的な回答だけではよくわかりません。今後話し合い等をお願いいたします。

代表：はい。今回は、代表と事務局の意見・見解です。これからは、この資料も参考にしていただきながら、各部会で話し合いをしていただけますようお願い致します。ただ、令和3年8月20日現在、新型コロナに感染する府民が増えており、大阪府に緊急事態宣言が出され、医療崩壊寸前と言われている状況ですので、各部会での話し合いもままなりません。この報告の広報「絆」第41号への掲載をもちまして、令和3年度の第1回総会とさせていただきますので、ご了承ください。今後の役員会・総会につきましては、事務局と調整しながらご連絡いたします。

以上

山口三智子

8月3日に第1回図書館協議会が開催されました。令和2年度事業報告、3年度事業についての説明がありました。

また、10代の図書館利用登録者数がなぜ少ないのか。書籍の電子化等の質問がありました。指定管理者制度導入方針についての説明がありましたが、どのような利点、問題点がある

のかが、なかなか思いつかなくて、勉強不足を痛感しています。

指定管理者と図書館フレンズのこれからの関わり方について、皆さんのご意見をたくさん伺って、どのように活動していくのが良いのか考えていこうと思っています。



カット 河野芳夫

こんな話があります(1)

ゲームソフトに勝った『どっちが 強い?』

橋本一郎

ある日曜日、5年生と3年生の兄弟が、ためた貯金をにぎりしめて、ゲームソフトを買いに行きました。

その前に、本屋さんによりました。何と、そこには、まだ見ていない『どっちが 強い?』の最新のシリーズがありました。

二人は、迷いました。『どっちが

強い?』は読みたいし、それを買ったら、ゲームソフトは、1つしか買えないし……

とうとう二人は、ゲームソフトより『どっちが 強い?』の魅力に負けました。

結論は、ゲームソフトを1つ。『どっちが 強い?』を1冊買って帰宅しました。引き分けか?……



編集後記

デルタ株で、感染症者は急拡大。ワクチンと、新型コロナのすぎましい闘いが続いています。「炬燵記事ではなく、実際に取材した記事を!」とはりきっておりましたが新型コロナは、「人と人とを引き離す」恐ろしいウイルスです。

こんな時は、文字や写真や絵に思いを託すしかありません。

皆さん、原稿をお願いします。カットを画いてください。

(広報部)



カット 池上智子